

【学校教育目標】

〈 自啓・誠実・協同 〉

～高い志を抱き、努力を惜しまず、責任と協力を重んじ、

創造的な知性と豊かな感性を備えた生徒の育成～

【本校の課題】

- 全学年男女で、握力の数値が低く、県・全国平均を下回っている。
- 全学年男子では、長座体前屈・ボール投げの数値が、県・全国平均を下回っている。
- 全学年女子は、50m走以外の種目に、課題がある。
- 全学年女子は、「運動が得意」の質問に対して、「やや苦手・苦手」が59%と高い。

【現状】

- ・保健体育の授業が楽しいと答えた生徒の割合が、全学年ともに全国平均を上回り、運動部活動にも顧問の指導のもと熱心に取り組んでいる。特に、女子の運動部所属率の低下は大きな課題である。〔男子運動部所属率 89%・女子運動部所属率 22%（2年生（7%））〕
- ・運動部に所属していない生徒への運動参加や長期休業中の生活において、生徒が運動の必要性を認識し、自ら積極的に運動に取り組んでいく習慣化に課題があり、学校全体として家庭とも連携を図りながら運動習慣確立の手立てを行っていく必要がある。また、1年生においては、小学校との体力強化についての連携も必要不可欠である。

「保健体育の授業での取組」

- ・新体力テストの結果を分析し、毎授業の中に不足している体力（柔軟性・全身持久力・筋（持久）力・瞬発力等）について、月単位、学期単位で補強運動を変更する。
- ・体づくり運動において、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力の向上を図り、目的に適した運動を組み合わせたり、運動の計画を立てたりして取り組むことができるようにする。（複数集団でのゲーム等）
- ・体育理論において、運動やスポーツの意義や効果などについて理解できるようにする。

「運動部活動や家庭・小学校との連携」

- ・新体力テスト等で自分の不足している体力要素について、向上させるためのトレーニングメニュー作りと実践を、毎日の部活動の補強運動や長期休業中の課題とし取り組ませる。



【 目 標 】

- 体力・運動能力の向上に係る取組を小学校・家庭とも連携し、学校全体として取り組む。
- 3年間を見通せる、体力テスト学習カードや記録表の工夫・開発をする。（実践中）
- 運動をすることが、得意・やや得意いと答えた生徒は、男子では100%である。女子では、41%とやや低く、本年度には、得意と答えた女子生徒の割合を、50%以上にするために、小集団でのゲーム種目を多く取り入れ、運動の楽しさを味わう機会とする。